

尹達

戦国時代に米沢を拠点としていた伊達氏。領地を防衛するため、家臣団によって置賜各地に城館群が築かれました。その城館群は「伊達四十八館」と呼ばれました。町内にも原田城などの城館址があります。

旧越後街道の
宿場町「小松」

本町の心地である小松は、江戸時代に米沢から新潟へ通じる越後街道の宿駅が置かれ、物流の拠点として栄えました。江戸時代後期に刊行された『東講商人鑑』には、「羽前米沢領小松諸商人細見」として11軒の大店が紹介されているほか、「三日町」「五日町」「十日町」などの地名や、町の中心に奉られた「市神」などからも往時の賑わいが伺えます。また、1878年に当地を訪ねたイギリスの旅行作家イザベラ・バードは、小松に宿泊したときの街や人々の様子を、『奥地紀行』に克明に記しています。

肥沃な農地が
広がる平野部

松川の左岸に位置し、肥沃な土壌と散居集落の美しい景観に恵まれた平野部では、古くから稲作が盛んに行われてきました。1968年には、米の反別収量が日本一となり、山形県のブランド米「つや姫」や「雪若丸」など良食味の主産地として知られています。

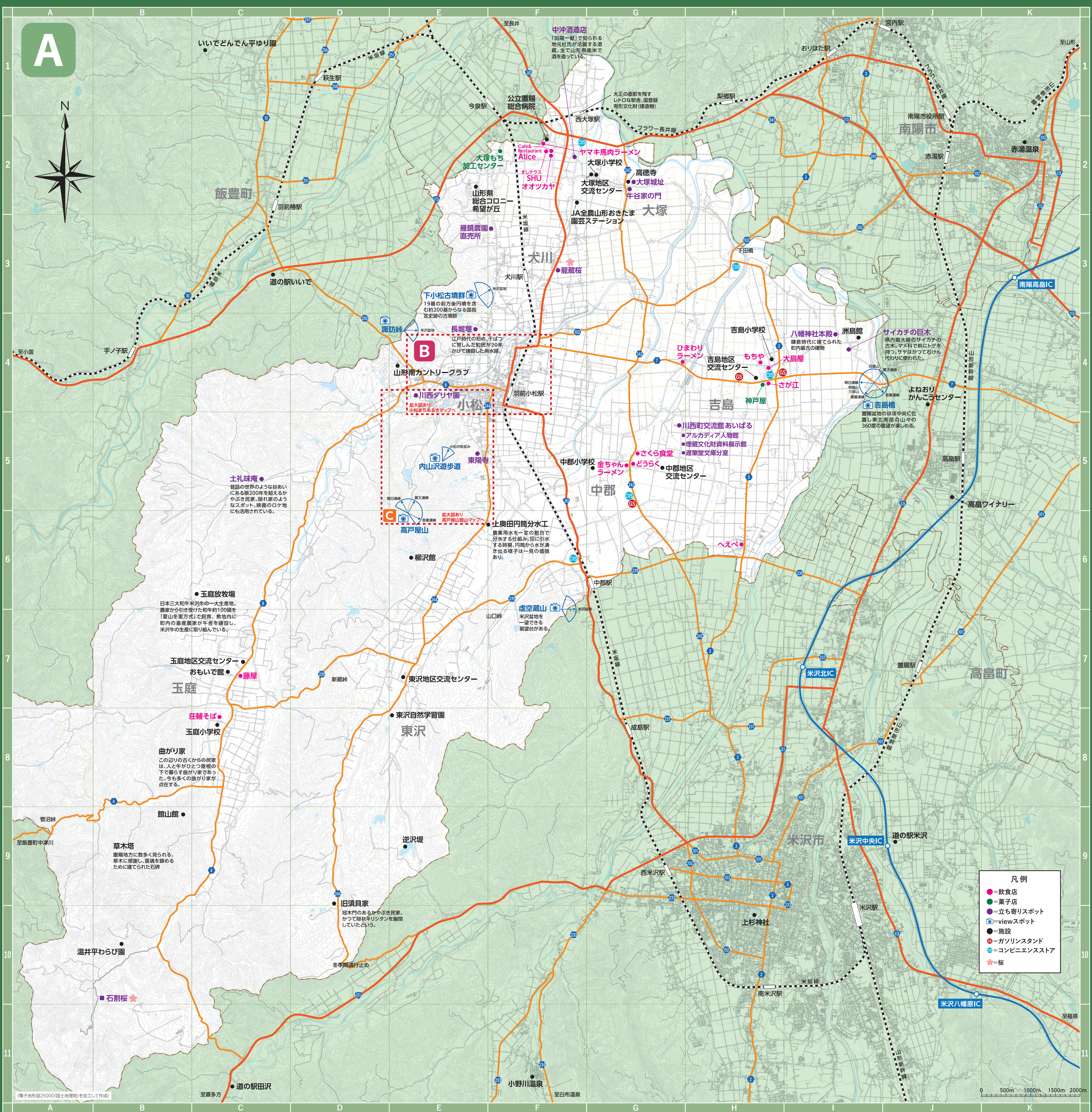
米沢藩士が暮らした中山間地域

茅さきの曲がり家が残る玉庭。東沢の両地区には、江戸時代の初めに会津から移された米沢藩上杉家の下級藩士が配置され、半農半士の暮らしを送っていました。明治期以降は、愛知大学の創設者本間喜一氏ら多くの教育者を輩出した。近年は、里山や手仕事と結びついた暮らしが、都市部からの移住者の心を捉えています。

「やまがた百名山」
高戸屋山 View spot



やまがた百名山に選定された標高368mの里山です。遊歩道が整備されており、3時間程で周回できる登山道となっています。展望の良い尾根からは飯豊や朝日、蔵王、吾妻の山々を遠望でき、山頂からは置賜の穀倉地帯を一望できます。



小松城址



交通の要所を管理する拠点や集会所として築かれ、伊達家でも位
が高い家臣が城主となりました。また、伊達家内の内乱「天文の乱」
(1542~1548年)と「元亀の乱」(1570年)の舞台としても知られてい
ます。現在も敷地内に高さ5m程の土塁が残っています。

原田城址



伊達家の家臣原田氏が拠点とし、山本周五郎の小説『樅太』は残った。の舞台となりました。原田氏は伊達家の中でも重臣であり、特に最後の城主原田宗時は、伊達政宗の側近として活躍しました。現在は公園の一部となっており、曲輪の間の深い堀切が確認できます。

大塚城址



東西210m、南北280mと大きな城址であり、近隣の高徳寺の周辺に土塁や水堀が残っています。1686年に牛谷氏がMAP番号 **A-G-2** に大手門を移築し、今でも川西町指定文化財として親しまれています。

城館を楽しむポイント！

土塁:敵の侵入を防ぐために盛土によって造られた防壁。
味方が上から敵を攻撃するときにも使われました。

堀:敵の侵入を防ぐために主に城の周りに掘られた堀。
土を掘っただけの堀を「空堀」、水を張った堀を「水堀」、
尾根を切り落とした堀を「堀切」といいます。

曲輪:土塁や堀などで囲んでつくった城の区画